

らっく

自分らしく、粹なくらし

まちづくり・生涯学習情報誌

2011.12 Vol.31 | 山茶花号

さざんか／秋の終わりに冬にかけての寒い時期に花を咲かせる、まさに冬の花です。冬枯れの季節、花の少ないこの時期に街角や公園などに咲く赤や白やピンクなどの色鮮やかな山茶花の愛らしいその姿は、見る者にほのぼのとした温かいものを感じさせます。

- 特集「芸術は 心のサプリメント」…… p1
- らっくキャンパス／らっくコラム …… p4
- プラザ通信 …… p5
- らっく情報の森 …… p9
- ひろしま八区イベントガイド …… p11

芸術は 心のサプリメント

人・作品・体験をインターネットつなぎ広島創作活動を応援する●NPOひろしまインターネット美術館
みんなで楽しむことを大切に

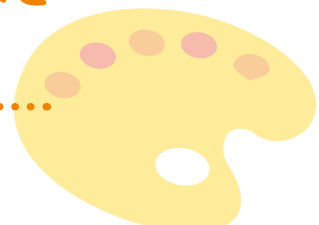
音楽の力で、地域や留学生と交流する●国際交流クラブ地球ファミリー・ウィンドアンサンブル
歌に踊りに腹話術。レパートリーの多さを武器に活動を広げたい●NPO法人いなかっぺ劇団
らっくキャンパス●学生ボランティア「来(ら)いぶらりフレンズ」

「市民が元気になる『まち』づくりとは？」●広島工業大学 環境学部 環境デザイン学科 地域環境学科 教授 森保洋之



芸術は心のサプリメント

なくても暮らせるけれど、あれば心をもっと豊かになる…。芸術にはそんな力があります。地域のアート活動の活性化を目指したり、歌や音楽で人との交流を深めたり、文化・芸術を通じて豊かな暮らしを創造する活動を紹介します。



広島多彩なアートを紹介

広島で活躍するアーティストとその作品をインターネット上で紹介しているのがNPOひろしまインターネット美術館。絵画をはじめ、書、工芸、彫刻、写真など、さ

人・作品・体験をインターネットでつなぎ 広島の創作活動を応援する

NPOひろしまインターネット美術館

<http://hiroshima-art.net/>



▲デパートで開催した工作教室では木のおもちゃやパズルを制作。たくさんの親子が参加した。

さまざまなジャンルのアート作品を公開し、展示会情報なども掲載しています。
カメラマンを本業とする発起人の原敏昭さんが、いろいろな人の作品写真をインターネットで紹介しようと思いついたのがきっかけで、仲間と相談しているうちに「芸術作品全体を扱ったほうが、多くの人に興味を持ってもらえるのではないか」と話が進みました。知人を通じてプロの画家に打診してみたところ、発表の場としても潜在的なニーズがあると感じ、二気に実現化。2002年に立ち上げ、2004年にはNPO法人となり、掲載する作家作品数は現在約5000点にのぼります。

個を集め、大きな力に

広島にはプロのアーティストが数多く存在し、アマチュアの作家たちも熱心に活動していますが、一般の人々がその作品に触れられる機会は限られているそうです。だからインターネットを通じて、作家や作品をたくさんの人に知ってもらい、広島の創作活動を応援



▶保育園の園庭に並べた大きな黒板に、チョークを使って絵を描いた。この日のテーマは「みんなのまち」。

したいという思いがメンバーたちの原動力になっています。「作家やアーティストの人たちは個人の活動が多いため、大きな形になりにくい。私たちの活動は個を集めることで、いろいろな線がつながったり、別の視点が生まれたりして、新しい可能性を広げる社会的事業です」と原さんは活動の意義を説明してくれました。

使命感に突き動かされ、活動の幅はどんどん広がっています。広島に公募団体の巡回展が来るときや、個展、グループ展などの作品展が開催されるときなどは、できるだけ写真撮影をし記録として残しています。作家本人による作品解説の映像制作も始めました。またインターネットで掲載しきれない作品も写真データとして会が保管しています。作家や作品にまつわるさまざまなデータをコツコツと積み上げることで、広島の創作活動のデータベースが出来上がる予定です。



▶プロの画家が講師になって季節の花や果物、野菜を描いた。この老人ホームでは月に2回美術講座を実施している。

インターネットとの融合

創作の喜びをもっとたくさんの人に知ってほしいという思いから、自分で習いに行けない子どもやお年寄り、障害者の方を対象に、美術講座も行っています。インターネット美術館に登録しているプロの作家の方も指導に協力してくれています。継続的に講座を開催している施設では、計画的に作品を制作し作品展も開催。その様子や作品はインターネットでも見ることが出来ます。

インターネットと現実の講座や展示会がリンクすることで、意外な広がりが進んでいます。閲覧や感心を持ってくれる人が増え、地域のサークルや企業からの問い合わせも増えてきました。「新しいものが生まれる実感があり、わくわくします」とスタッフの中木風子さんはやりがいを感じてくれました。今後は画集の発行やアートセラピーなどの構想があるそうです。

みんなで楽しむことを大切に 音楽の力で、地域や留学生と交流する

国際交流クラブ 地球ファミリー・ウインド・アンサンブル

<http://earthfamilywind.sitemix.jp/blog/>



▲留学生の母国の民族衣装や伝統音楽を披露する合同イベントにも参加。

エリザベト音楽大学に通い、ここでは指揮を担当するタニエルさんは「みんな家族みたいに仲良し。年代によってコミュニケーションの取り方が違うので、大学だけでは学べなかったことをたくさん学べています」と言います。これまで、タイやベトナム、韓国、中国からの留学生たちが一緒に活動してきました。

音楽でみんながひとつに

設立は1995年。当時の代表

が「音楽で国際交流をしよう」と音楽好きの仲間を集めて、留学生を招いたことが始まりでした。最初は、その場で簡単な演奏を披露しただけのすき焼きパーティーでしたが、より深い交流を目指し「初心者歓迎」「楽しく」をモットーにした音楽団体として活動を開始。留学生も一緒に仲間同士で教え合ったり、初年度からコンサートを開催されたそうです。

1年の集大成として、毎年12月



▲土曜日の例会には多くのメンバーが集まり、練習後は留学生と食事に行くことも。

にはクリスマスコンサートを開催し、多彩な楽曲を披露。メンバー全員が参加する最大のイベントで、心待ちにしてくれる人もいます。大きなホールで、奏者全員の音がまとまった時の一体感は癖になる快感だそうです。ファゴット専攻でフルートやサクソも演奏するジョセフさんは「クリスマスコンサートが、一番の思い出。みんな頑張って一生懸命に練習して、本当に感激しました」と日本語で話してくれました。

競わず、楽しく、地域貢献

コンクールなどは一切目指さず、地域とともに歩む方針で活動を続けています。有志が集まり、毎月のように老人ホームやデイサービス、地域のお祭りなどに行き、ボランティアで演奏しています。今年は西条の酒祭りや、酒蔵の中でコンサートをしました。町内会の祭りや小学校でも演奏します。楽器に興味を持つ子も多いので、触らせてあげると喜ばれるそう



クリスマスコンサート 日時:12月24日(土) 13:30~15:30 会場:ゲバントホール 入場料:500円

図書館から子どもたちに、本の楽しさを

今回のらっくキャンパスでは、広島県立図書館の学生ボランティア「来(ら)いぶらり・フレンズ」に取材に行かせていただき、お話を伺ってきました。

広島県立図書館にて、子どもたちを対象に絵本の読み聞かせをするおはなし会や図書館内のオリエンテーション、機関誌の編集などを行っている『来(ら)いぶらり・フレンズ』。平成16年に活動を始め、現在の構成スタッフは、中学・高校・大学生など学生中心の

21人。中学・高校生も参加する、県内でも数少ないボランティアグループの一つです。

一度のおはなし会に集まるのは、子どもたち約10人にその保護者を加えて20人ほど。2回の養成講座を経ているスタッフも、最初は手が震えるほどに緊張する人もいるのだとか。それでも「目を輝かせながら楽しみにして

お気に入りの絵本を手にする学生ボランティアの皆さん



いる子どもたちを前にして、緊張がほぐれた」「自分が読み聞かせを終えた後に、子どもたちがその本を借りて帰ってくれたときはうれしい」と楽しそうに話してくれました。

もともと本好きという共通点のあるスタッフたち。不定期に行う機関誌の編集作業などは、いろんな学校の幅広い年齢のスタッフ同士が仲良く交流できる貴重な場となっているようです。

『来(ら)いぶらり・フレンズ』は、子どもたちが読書の楽しさを学ぶ後押しすることを目的に始めました。仲のよいスタッフたちが、子どもたちを楽しませている様子は取材からも伝わり、自らの刺激になりました。

レポーター 広島大学 HU-Style 学生編集スタッフ 武林 賢朋さん

第10回 らっくコラム

こちらのコーナーでは、市民活動、ボランティアについて研究されている大学の先生に「まちづくり」についてお聞きしています。市民主体のまちづくりや生涯学習について、ご自身の研究内容や体験などをふまえ、さまざまな視点からお話いただけます。

市民が元気になる『まち』づくりとは？

旧・広島市民球場建設のための広島地区初の「大学内の樽募金」活動を、当時、実は私、提案者の一人として、学生に呼びかけました。結局、「広島工業大学・樽募金」が発足し、新聞にも取り上げられました。その募金開始の学内のオープニングイベントの際、あいさつを求められ、私は「市民が元気になる『まち』づくり」のための10カ条とは？と題して以下を示しました。

やさしさ・いたわり・痛みを、人・もの・『まち』に感じること。基本中の基本!!

つ 常日頃、自分自身を心身共に元気に! 元気な人がいないと元気な『まち』はできない!!

た 樽募金、『まち』づくりは自分の問題、決して行政や専門家のみの問題ではない。

る ルール・規律と、自然に生まれた約束事・規範、両方共に必要!!

ぜ 絶対という言葉には要注意。『まちづくり』は、動きの中にあるものだから!

ま マチ、まち、町、街。いずれも違ったイメージ。状況にあった表現を!!

ち 地域、場・場所重視。足元は大事。自らの地域は自らの手で!! これらも基本中の基本!! 地・学連携。大学は地域への貢献が重要!! (今後は、地・学競演の『まち』づくりが必要。)

づ 『づくり』は、『つくり』に点々がつく。これは多くの人が関わる『もの・こと』と読もう!

く クールヘッドと、ホットヘッド、両方必要。冷静に観察し、動くときには燃えよう!! 大きく、ダイナミックな動きをみて判断しよう!!

り 理屈と、屁理屈、みな必要(?)。大いに議論を!!

これは確か、講演前の20分間で創りました。後から見直すと、練れたものではありませんが「市民が元気になる『まち』づくり」のための思いは込められていたようにも感じ、今でもほほ笑ましいこと! そのとき参加された皆さんへの私からのメッセージであった! と考えています。10カ条については、頭文字の平仮名を縦に読んでください。実は<やったるぜ、まちづくり>となります。全体をとおして大事なことは、<市民の、市民による、市民のための『まち』づくり>であるということです。



山口県・上関町・祝島集落・練堀修復風景の様子

森保洋之 もりやす ひろし

■所属・役職 広島工業大学・環境学部・環境デザイン学科・地域環境学科・教授

■活動概要 建築・都市計画、地域・集落計画、地域社会形成

(地域・集落計画研究・再生支援、商店街計画研究・再生支援、住宅地・地区計画研究・再生支援、集合住宅計画研究・再生支援、他)



劇団の上演レパートリーは多種多様。民謡、日本舞踊、フラダンス、

▲劇団訪問、病院のヒーロー歌う代表の多田さん。

多彩な演目が魅力
劇団としては珍しいNPO法人として活動するいなかつペ劇団。歌や劇では、県内初の認定です。仕事をしながら活動をする30、40人の団員で福祉施設への慰問などを中心に、年間40回ほどの発表会をこなします。他地域の老人クラブや他団体と協力してイベントをすることもあります。

喜ばれることがやりに

代表の多田政直さんはカラオケが趣味で、歌は上級者。15年ほど前に脳梗塞のリハビリで通院していたとき、病院が経営する養老院でたまたま歌を披露することになったそうです。それが好評で、他の施設でもやってほしいとリクエストが舞い込むようになりました。そのうち「自分もやりたい」という人が集まるようになったのが、劇団をつくることになったきっかけです。「いろいろなことをやるから、お年寄りの人もすごく喜んでくれる。見せたい人と見たい人

どしようすくい、ひよつとこ踊り、腹話術、南京玉すだれ、紙芝居、詩吟など何でもあり。メンバーも、全くの素人から師範や講師、プロの人もいるという幅広さが自慢です。弟子や生徒を連れてくることもあり、層の厚みが出るとともに、彼らにとっては発表のいい機会になっているようです。



▲アイサービス施設で子どもと一緒に踊り、ほほ笑ましい瞬間から思わす笑み。

のニーズがピッタリ合って、こんなにやりがいがあることってないですよね」と多田さん。

安来節の保存会で活動し、どじょうすくいなどを勉強中のあるメンバーは「正式な発表会も定期的に経験しますが、そういうものとは別の価値がある。いなかつペ劇団のイベントは、演じる方も見る方も笑顔なんです。私も気持ちよく、楽しく活動しています」と言います。

目指せ広島一の大劇団

夢は劇団を大きくして、自力で何でもできるようにすること。長時間のステージでも、複数の場

所でも、こなせるほどの規模にしたいと言います。そのために練習場の整備もしました。趣味でつくっていたカラオケ用のステージを、劇団の練習用の施設に改装。ピアノ、ギター、ドラムなども置いてあります。また、野外でも使える大きなスピーカーなど音響の道具も揃え、大人数でも発表できるよう、マイクは50本以上揃っています。

「規模を大きくしたい。まずは団員100人を目指します! いずれは広島一になりたいね。やっぱり夢は大きく持たないと。うまい下手はどうでもいい。初心者でも大歓迎です。最初は震えるほど緊張するけど、数回出れば癖になりますよ」と多田さん。ただ今、劇団員募集中です。

▲いなかつペ劇団のステージでは、プロや師範級の舞や踊りも見ることができ。

